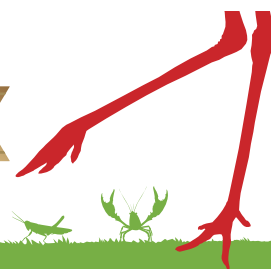


キコニアレター

2019.12.25 発行 No. 2 2

開園20周年記念号



天然記念物制度と コウノトリの野生復帰



文化庁 文化財第二課
文化財調査官

EDO Kaneaki
江戸 謙顕

コウノトリは昭和28年に天然記念物、昭和31年には特別天然記念物に指定され、その保護が図られてきた。天然記念物や特別天然記念物という言葉を知らない人は多いかもしれない。しかし、天然記念物制度については誤解も多く、その内容もよく知られていないと言えない。そこでコウノトリを例として、天然記念物制度について少し紹介したい。

天然記念物を国として保護する制度は、大正8年の史蹟名勝天然記念物保存法に規定されて始まった。昭和25年には現在の文化財保護法に引き継がれ、令和元年でちょうど100年を迎えた。長い歴史も奏功したのか、天然記念物と言え保護すべきものということが、国民には広く浸透している。しかし、天然記念物とは絶滅危惧種のことであり、その制度の目的は絶滅危惧種の保護であるという誤解も根強い。絶滅危惧種は、文字通り絶滅のおそれのある生物種のこと、一般に、絶滅のおそれの程度がその選定の基準となる。一方、天然記念物は、文化財保護法において、動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもののうち重要なもの、と定義されている(第2条、109条)。すなわち、天然記念物とは、絶滅のおそれの程度に基づいて選定される絶滅危惧種ではなく、学術上の価値に基づいて指定される、文化財の一類型なのである。

動物や植物等といった自然物が文化財であるということに違和感を持つ方もいるだろう。しかし、天然記念物が学術上の価値に基づき指定されることを踏まえると、少しは理解しやすいかもしれない。自然が有する学術的価値を発見し、評価し、享受する行為は、まさしく自然に対する人の文化的な営みである。天然記念物制度は、そうした文化的営みの基盤、ひいては文化創造の基盤として、学術的価値を有する自然を保護することで、文化の創造・発展に寄与しているのである。地域の自然や文化の価値が見直されている昨今、天然記念物をその象徴として保護することで、自然と共存した豊かな地域づくりを目指す取組も各地で進められている。コウノトリの野生復帰はその好例であろう。コウノトリを保護することで、餌となる多様な生物や豊かな環境を擁する健全な水辺生態系が保護される。また、コウノトリに配慮して農業生産方式にも変化が及び、無農薬米や減農薬米等が地域の特産品になっている。さらに、コウノトリ放鳥以降、コウノトリの郷公園には年間数十万人の人が来訪しており、豊岡市への経済効果は観光面で年間数億円に及ぶとの試算もなされている。他にも、地域における天然記念物保護意識の普及啓発や環境教育の材料等として、コウノトリとその野生復帰の取組は活用されている。天然記念物制度は、地域の自然や文化への理解を深め、自然や文化を大切にする魅力ある地域づくりにも貢献していると言えるだろう。

コウノトリの個体数 (2019.12.6 時点)

飼育					野外				
施設・拠点名	オス	メス	不明	計	カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	29	33	0	62	リリース	18	15	0	33
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	17	15	0	32	野外巣立ち	33	64	0	97
養父市伊佐拠点	0	0	0	0	野生・由来不明	0	1	0	1
朝来市三保拠点	0	0	0	0	他府県リリース	11	5	0	16
計	46	48	0	94	他府県巣立ち等	16	15	0	31
					計	78	100	0	178

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県立コウノトリの郷公園 開園20周年記念シンポジウム

兵庫県立コウノトリの郷公園は、野外で一度は絶滅した国の特別天然記念物コウノトリを蘇らせ、野生復帰を目指す施設として、1999年11月に開園しました。今や野外のコウノトリは180羽を超え、^{注)} 生息域は全国へ拡がり、野生復帰事業は新しいステージに入りました。注) 2019年10月末時点の個体数

開園20周年を迎えた郷公園で、11月2日に、「コウノトリとの約束からコウノトリとの未来へ」をテーマにした講演やパネルディスカッションが開催されました。

今号と次号の2回に渡って、シンポジウムで発表された内容をご紹介します。

コウノトリとの約束は果たせたのか？



20周年記念シンポジウムでの発表の様子（発表者：佐川志朗）



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科長
兵庫県立コウノトリの郷公園
統括研究部長

SAGAWA Shiro
佐川 志朗

コウノトリに対して、域内個体群をも考慮した適切な血統管理を実施している。2019年の我が国のコウノトリ総数は370個体（前述、域内185個体+域外185個体）に達したが、その創始個体数は37個体（近縁関係を排除するともっと少ない）に留まる。IPPM-OWSではすべての個体を家系管理して遺伝的多様性が向上するような血統管理を講じているが、今後は、近親婚等の個体群の健全性に影響を及ぼす可能性がある要因や、国外からの個体交換も模索しながら、個体群の多様性を維持していかなければならない。

コウノトリとの約束とは、絶滅間近な1965年に止む無く人工飼育を導入するにあたって、コウノトリと人間がかかわった約束とされる。豊岡市教育委員会（1992）には、「あくまで保護と増殖が目的で、成功しヒナが育つと順次野に放そう。コウノトリよ、窮屈だが少しの間辛抱してくれ」と記載がある。これに対する解釈は様々あろうが、野外に185羽も生息しているのだし、約束は果たされたとも言えるのかもしれない。しかし一方で、我が国のコウノトリ個体群として永続的に維持されるような遺伝的にも健全な野生個体群の復活を遂げて初めて「約束を果たした」と捉えることもできよう。我々は、正に後者が「コウノトリとの約束」だと肝に留め、今後は極東および東アジア地域を視野に入れて真の野生復帰を遂行していかなければならない。

参考文献

豊岡市教育委員会(1992)舞い上がれ再びコウノトリの歴史―. 31pp.

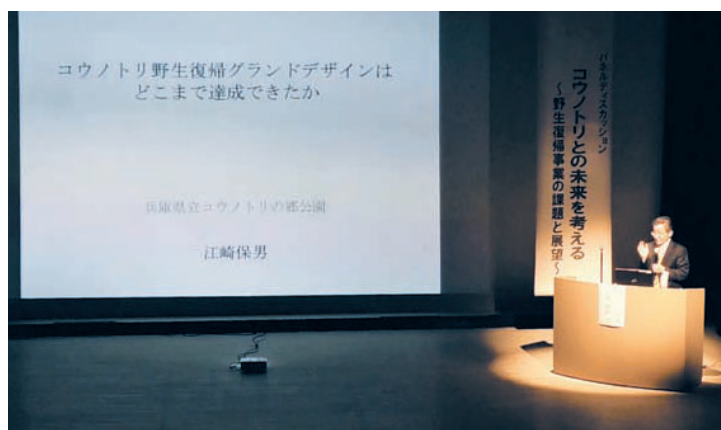


大空を舞うコウノトリ

我が国のコウノトリ個体群は1971年に一度途絶えているが、飼育下での絶え間ない繁殖の試みにより2005年には野外放鳥に漕ぎ着け、2007年には野外での繁殖に到っている。この後の野生復帰の進展としては、まずは但馬地域で営巣エリアが拡大した後、近年では地域外に繁殖地を構えている。すなわち、2012年には京都府京丹後市、2017年には徳島県鳴門市、2018年には島根県雲南市、2019年からは鳥取県鳥取市および福井県坂井市でも営巣地が形成された。このような繁殖地の拡大や各所における放鳥事業の結果、我が国の野外個体数は直線的に増加し、2019年10月21日時点で185個体、国内飛来地は47都道府県456市町村におよんでいる。さらに2014年から朝鮮半島への飛来も確認されており、現在までに計6個体の国外移動が確認されている。以上を踏まえると、今後全国において新規繁殖地が形成されることが想定される。一方で、2019年の繁殖に成功した新規営巣地の平均巣立ち雛数（3.8個体）は但馬地域の巣立ち雛数（2.5個体）よりも有意に多い。このことは、新規営巣地周辺には、雛に与える餌動物が豊富に生息していることを示唆し、巣をかまえるコウノトリは、一旦全国をめぐるながら特に餌条件が良い場所を選択し、営巣していることが考えられる。従って、全国への繁殖地拡大のためには、餌条件のポテンシャルを高める環境整備の全国推進が必要であろう。

野生復帰のここ10年の成果の一つとして、2013年のIPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の設立があげられる。本パネルは、全国のコウノトリの飼育施設や野生復帰事業に取り組む組織から構成され、全国に広がりつつあるコウノトリ個体群を健全に維持するために、遺伝学的、生態学的、応用生態工学的、社会学的アプローチを用いて、コウノトリ野生復帰事業を後押ししている。組織は域内（野外）および域外（飼育下）部会から構成され、活動の一端を紹介すると、前者では野外185個体に対する生息地保全や整備への助言、後者では飼育下185個体（2019年10月21日時点）のコ

コウノトリ野生復帰 グランドデザインはどこまで達成できたか



20周年記念シンポジウムでの発表の様子（発表者：江崎保男）



「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」表紙



福井県坂井市の親子（2019年）

コウノトリ野生復帰グランドデザインを2011年に作成し、そこに示した目標を達成することが「本格的野生復帰」の指針となってきた。

グランドデザインの内容を振り返っておこう。そこにはまず、野生復帰の目的が書かれており、コウノトリ野生個体群の再生にとどまらず、生物多様性の保全が目的であることが明示されている。

これに、「歴史」「試験放鳥期間の（科学的）成果」が続き、さらに「野生復帰の必要条件」が語られている。そして必要条件を満たすための「短期・中期の目標設定」、「野生復帰のゴール」と続く。

ここまで順調に進んできたのは「中期目標：国内のメタ個体群構造の構築」である。メタ個体群とは「断続的な遺伝子交流を行いながら存続する、空間的に独立した個体群から構成される全体」と説明できるが、本来は、すべての生物種が、この構造を有している（どの種も空間的に離れた複数集団からなっている）。コウノトリの場合には、かつて存在していたこの構造が絶滅に至る過程で次第に失われていったと考えられ、そのプロセスの逆行を行う必要があるのだ。

さて、2019年の繁殖期が終わった時点でコウノトリの国内繁殖地は、豊岡を中心とする兵庫県但馬地方にとどまらず、2017年からの徳島県鳴門市、2018年からの島根県雲南市と京都府京丹後市（2012年、2013年に繁殖したつがいはその後消滅した）、そして2019年からの鳥取県鳥取市、福井県坂井市といった具合に、空間的に離れた6府県に広がった。むろん、兵庫県以外の個体群はいずれもまだ、1つがいの繁殖成功にとどまっていて、今後、各地でのつがい数の増加が期待される段階にあるとはいうものの、中期目標達成は目の前にあると言ってよいだろう。実際、徳島県鳴門市においては、つがい以外に、複数個体が



兵庫県立コウノトリの郷公園
園長

EZAKI Yasuo
江崎 保男

ほぼ常駐するようになり、その中には、他の地域個体群で生まれたものが含まれており、これらが繁殖するようになれば、文字通り「断続的な遺伝子交流」が実現されることになる。また、日本と韓国の間を移動する個体も出現しており、大陸との遺伝子交流も夢ではない。

一方、短期目標には8項目（①～⑧）を挙げた。これらのうち6項目については、それぞれ達成あるいは、ほぼ達成の評価ができる。残る課題は、②「給餌からの段階的脱出」、⑧「合意形成の促進」であろう。②については、野外個体が、餌を西公開ケージに依存している状況を克服しようとさまざまな努力を行ってきており、一定の成果をあげてはいるものの、野外個体が餌の盗み食いできないようにする根本的な対策が必要である。また⑧に関しては「合意形成のシステムづくり」まで至っていないのが現状であり、今後のさらなる努力が必要である。

そして、新たに「遺伝的多様性の確保」「環境収容力の底上げ」という2大課題が浮上してきた。後者はグランドデザインの目的「生物多様性の保全」に直結する課題でもあり、この2大課題の克服が今後の大きな目標となる。



令和初の野外巣立ち個体（令和元年5月22日祥雲寺巣塔から巣立つ）
コウノトリ育む農法の田んぼに降り立ちエサを探す（場所：兵庫県豊岡市祥雲寺）



げんきくん物語

海をわたったコウノトリの大冒険
読書感想文コンクール



兵庫県から福井県に譲渡した卵から誕生し、福井県で放鳥されたコウノトリ「げんきくん」の冒険とそれを支える多くの人々の姿を描いた児童書が講談社「青い鳥文庫」から出版されました。

その出版と兵庫県立コウノトリの郷公園開園20周年を記念して全国の小・中学生を対象とした読書感想文コンクールを開催し、小学生の部で103点、中学生の部で37点の応募がありました。玉岡かおる、キム・ファン両氏による厳正な審査の結果、上位7点が優秀賞に選出されました。

受賞者は次のとおりです。

- | | |
|----------------|---|
| 兵庫県知事賞 | 吉沢 壮生 「げんきくん物語」を読んで（豊岡市立神美小学校3年） |
| | 山本 真芳 「コウノトリの舞う空」（雲南市立大東中学校2年） |
| 兵庫県教育長賞 | 岡西 優真 「わすれないよ、げんきくん」（長野日本大学小学校3年） |
| | 安田 高祐 「人とコウノトリ達がかもっと共生する豊岡に」（近畿大学附属豊岡中学校1年） |

兵庫県立コウノトリの郷公園長賞

- | | |
|--|----------------------------------|
| | 井垣 華菜 「げんきくん物語」を読んで（豊岡市立日高小学校4年） |
| | 新池谷 悠 「コウノトリと共に生きる」（前橋市立第一中学校1年） |

審査員特別賞 泉 拓希 「げんきくん物語」を読んで（丹波市立東小学校5年）

これらの受賞作品の中から、小学生の部の兵庫県知事賞の作品をご紹介します。



開園20周年記念式典での表彰式

小学生の部 兵庫県知事賞

「げんきくん物語」を読んで

豊岡市立神美小学校 三年 吉沢 壮生

ぼくは、コウノトリのげんきくんの冒険旅行が始まった時は、どんな楽しいことや、わくわくする事が起きるのかと思っていました。

しかし現実では、げんきくん自身が、落ちていてくらせる場所がなかなか見つからず、一万二千メートルも、あちこちを飛び回っていた事、生きていくための大変な旅なんだと読んで、応援したくなりました。

島根県の雲南市で、ななちゃんというメスのコウノトリに出会ったのは、げんきくんが頑張り続けたからこそ神様からのごほうびだと思いました。

そんな運命の出会いのななちゃん、サギと間違われて、あやまってうたれて死んでしまった事は本当にショクな事件だったし、残されたななちゃんとの間に産まれた四羽のヒナ達を、オスのげんきくんだけではたして育てられるのが、特に心配でしかたがありませんでした。

ななちゃんが鉄砲でうたれた事実を知らないげんきくんは、帰ってこないななちゃんの分まで、必死にエサを運んでいましたが、げんきくんにかかわっている人たちは、ついにヒナ達をきゆうごする事にしました。ぼくは、その話を知ってほっとしました。げんきくんもきつとつかれていたの、ほっとしたと思います。

コウノトリは、一人立ちするまで、タマゴからかえっても、ヘビやもつき

ん類におそわれたり、たくさんきけんな目に合うと聞きました。自然界なら、ヒナ達四羽無事にすだっていないかもしれません。

げんきくんはヒナ達のために本当によくがんばったなあと思います。それだけに、ななちゃんの出会いは運命の出会いだと思うと、こんなお別れのかたは、本当に悲しいです。

その後、げんきくんは、ボンスコというメスに出会って、二羽の間にヒナ達もたん生し、ななちゃんとの間のヒナ達が成長してから再会するといふ、うれしい出来事もありました。

げんきくんの冒険は、決して悲しい事ばかりではなくて、げんきくんががんばってのりこえたからこそ、最後には、幸せがやって来たと思います。

ぼくは、この本を読んで、自然界の生き物が人間とちがって、明日生きれるかどうかのきびしい毎日をすごしている事と、人間の行いで命をうばう事も、その命を助ける事もできると知りました。

げんきくんが、どうして落ちて住める場所をなかなか決められなかったのか、ななちゃんのような悲しい事件がもう二度と起きないように、ぼくたち人間ひとりひとりが、生き物や食べ物にかんしゃする事や、もったいなくみを持って、自然をよごさないように気をつける事が大切だと思うようになりました。



作家
兵庫県教育委員
玉岡 かおる

みんなの思いをつばさに乗せて

いやー、驚いた。寄せられた103作品、どれも力作。どれも巧い。

私も小学生の頃は作文が大の得意だったけど、こんなに巧く書けたっけ。

読書感想文は、まずは本を読まないと書けない作文だから、読む、という作業の前でお手上げになる子もいる。おもしろい本ならすぐに読んでしまえるのにな。

その点、「げんきくん物語」は、動物が好きという子なら難なくのめりこめただろう。なにしろ実際にいるコウノトリが主人公の、事実を書いたおはなしなのだから。

男子の応募が多かったのも、そのせいかもしれない。私もそうだったけれど、女子は空想の世界でおりなす物語を好む傾向にあるらしいから。

それでも、コウノトリが国境を越えて大空を飛び、数々の苦難に打ち勝っていくこの本は、あらすじを追うだけでも、きっとドキドキ、たくさん書きたくなることだろう。

さらに、巧い作文というのは、ちゃんと「自分の目」が入っていることが大切だ。物語の中のできごとを、自分はどう見て、そしてどう感じたか。そこが優劣の分かれ目になる。

その意味で、今回選ばれた4作品は、ちゃんと「自分の目」が光っていた。

みんな、母鳥のななちゃんが間違えて撃たれて死んだ時のこと、ショックだったね。そして一人ぼっちになったげんきくんを思って心を痛めたね。その純粋さには、読んでいるこちらの胸がつかなくなった。

最優秀賞の吉沢壮生君の「げんきくん物語を読んで」は、そんなみんなの思いを代表するようにその悲しみを書いてくれた。(略)

このコンクールは便宜上、小学校の部と中学校の部とを分けてあるが、一緒にしてもすぐれたレベルの出来ばえだった。どうかこの感慨をさぐる「目」をいつまでも大切にして、コウノトリを見守ってほしい。

読書感想文コンクール選評

わたしはたくさんのコウノトリの本を書いてきました。ですので、どのような感想文が届くのだろうか？興味がありました。みなさんが、コウノトリと共に暮らすにはどうすればいいのかを真剣に考えてくれていることがわかり、とてもうれしくなりました。感想文の多くが、ななちゃんがサギとまちがえられて撃たれたこと、げんちゃんが発泡ゴムを食べて死んだことなどの例をあげながら、コウノトリについて本で知ったことや、これから自分たちがどのようにすればいいのかが、しっかりと書かれていました。そこで小学生の部は、どれだけ自分の考えを自分自身の言葉で深められてい

るのか、というところに注目して審査を行いました。

県知事賞に輝いた吉沢君の作品は、「げんきくんが、どうして落ち着いて住める場所をなかなか決められなかったのか」と疑問を投げかけながら、コウノトリが暮らしていけるところとはどのような場所か？自分の考えを深めていました。(略)

コウノトリと共に暮らすためには、豊かな自然と、人間の豊かな心が必要なのです。特に受賞者のみなさんは、そのことをほかの作品よりもより深く、自分自身の言葉で書かれていました。受賞者のみなさん、おめでとうございます！



絵本・児童文学作家
キム・ファン

郷公園 HP で受賞作品と選評の全文を公開中！



HP



保護増殖センター
「約束のケージ」視察



飼育管理棟視察

一日園長

兵庫県知事賞を受賞した二人には、「一日園長」に就任していただきました。そんな「一日園長」の執務の様子をご紹介します。



「一日園長」任命式
吉沢壮生くん、山本真芳くん



おつかわさまでした！
イベント勤務



飼育コウノトリへの給餌体験



郷公園市立コウノトリ文化館視察

20周年記念 郷公園デー

11/2・3・4に
行いました

今年、兵庫県立コウノトリの郷公園は開園20周年を迎えました。それを記念して、11月2・3・4日にさまざまなイベントが行われ、多くのお客様で賑わいました。郷公園がこういった施設なのか改めて知っていただきながら、コウノトリやコウノトリを取り巻く環境について知ることができるイベントが盛りだくさんでした。そのイベントの一部をご紹介します。



ぐるっと郷公園スタンプラリー

普段、一般の方は入ることが出来ない非公開エリア 飼育ゾーンも大公開！スタンプを集めながら、園内を回っていただくイベントです。初級・中級・上級コースがあり、それぞれスタンプを集めた方にオリジナルグッズをプレゼントしました。



『約束のケージ』特別公開

郷公園から車で15分のところにある、コウノトリ保護増殖センターで行われました。こちらには、今年、国の登録有形文化財に認定された『約束のケージ』があります。『約束のケージ』はコウノトリの飼育ケージの中で最も古いケージです。



野生復帰事業から 「大地・人・生態系の共生」へ

コウノトリに関する最先端の研究を担っている兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の、最新の研究の一端をパネル展示しました。科学的な見地からコウノトリの保護増殖と野生復帰について皆様にお伝えしました。



コウノトリの診療所

コウノトリの治療室と手術室で、実際の診療機材（レントゲン、麻酔器など）を見ながら、飼育コウノトリの健康管理・検査・治療などについて獣医師と獣医看護師が解説をしました。



飼育のおしごと展

コウノトリの野生復帰を支える飼育活動について、飼育で使用する道具や「さわれるコウノトリのはく製」などさまざまな展示をしました。



鶴見茶屋

兵庫県立豊岡総合高校茶道部の皆さんのお点前で実施しました。コウノトリや紅葉を眺めながら、ゆっくりとお茶を楽しんでいただきました。こちらは豊岡市立コウノトリ文化館と郷公園の共催イベントです。

ACCESS

◎自動車で

神戸から[約2時間30分]

姫路から[約2時間]

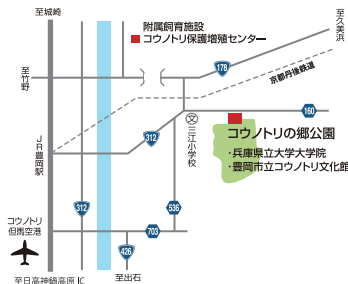
最寄り 日高神鍋高原 IC から約30分

◎公共交通機関で

J R 山陰本線「豊岡駅」から約4.5km

全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)

コウノトリ但馬空港から約12km



編集後記

郷公園デーにて、私はスタンプラリーのスタッフとして参加しました。イベントの案内や、コウノトリについての質疑応答などをしつつ、スタンプポイントで待機をするという役割です。

お客様は、「非公開エリアに入れるから」、「プレゼントが貰えるから」、「たまたま来園したから」、「散歩がてら」など、様々な理由で参加されていました。中には、何とも嬉しい…私に会いに来たんだという、一度環境学習で来園してくれた小学生もいました。きっかけは様々ですが、共通していたことは皆さんが「笑顔」であったということです。楽しい思い出と共にコウノトリを思い出していただけたら、より一層関心が深まるきっかけになるだろうと思いながら、お客様と話をしていました。

次回、より良いイベントにするために、イベント後に郷公園内で反省会も行われました。来年はさらに進化したイベントをご提供できればと思います。来年も、郷公園とコウノトリをよろしく願っています。(自然解説員 舟木愛美)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128 tel : 0796-23-5666 fax : 0796-23-6538

開園時間：9：00～17：00

休園日：毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日～1月4日

e-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ : <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp>

facebook ページ : <https://www.facebook.com/satokouen/>



HP



FB